

2021 年 3 月期決算について

株式会社ソラシドエア(本社:宮崎県宮崎市 代表取締役社長:高橋 宏輔)は、本日 5 月 31 日(月)、2021 年 3 月期の決算を取りまとめました。詳細につきましては別紙「2021 年 3 月期決算短信」をご参照ください。

1. 2021 年 3 月期の業績

(1) 概況

当事業年度における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にある中で持ち直しの動きが続いているものの、個人消費などに弱さがみられます。

航空業界においては、過去に経験したことのない甚大な影響を受けており、極めて厳しい状況になりました。国内線においては、5 月の緊急事態宣言解除以降、Go To トラベル事業も相まって旅客需要が回復に向かっていたものの、年末年始の感染再拡大や 2 度目の緊急事態宣言の発出により需要が激減するなど感染者数の動向に応じて推移しました。

このような環境において、当社においても旅客需要の減少に直面しました。斯かる状況に対応するため、需要に応じた生産量の弾力的な運用による変動費の抑制や、航空機リース料をはじめとした固定費用の聖域なき見直し等、事業継続のためのコスト削減施策に取り組みました。また、需要動向の変化並びに更なる競争環境の激化等を踏まえ、収益性や生産性の向上を図るべく、3 月 28 日(2021 年サマーダイヤ)から、東京(羽田)ー沖縄(那覇)線の新規開設をはじめ、路線便数計画の見直しを行いました。

営業・サービス面では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け休止している機内販売商品の Web 販売を開始しました。また、待ちの不満を解決する受付管理アプリ『Air ウェイト』を、航空業界で初めてチェックインサービスカウンターに導入する等、『安心できる空の旅へ ソラシドエアができること』を合言葉に、安全で安心できる空港・機内環境の整備に取り組んでおります。引き続き関係各所と協力し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めてまいります。

(2) 業績状況

当事業年度の業績は、営業収入が 20,255 百万円(前事業年度比 51.6%減)となりました。事業費は、27,554 百万円(同 23.1%減)、販売費及び一般管理費は 3,210 百万円(同 29.8%減)となり、この結果、営業損失は 10,509 百万円(前年同期は営業利益 1,425 百万円)となりました。

営業外収益 1,034 百万円及び営業外費用 174 百万円を加減した経常損失は 9,649 百万円(前年同期は経常利益 1,306 百万円)となりました。税引前当期純損失は 9,649 百万円(前年同期は税引前当期純利益 1,306 百万円)、当期純損失は 7,694 百万円(前年同期は当期純利益 990 百万円)となりました。

【営業業績】	2021年3月期	2020年3月期	増減	前年同期増減比
営業収入 (百万円)	20,255	41,850	△21,595	△51.6
営業費用 (百万円)	30,764	40,425	△9,660	△23.9
営業利益 (百万円)	△10,509	1,425	△11,935	—
営業利益率 (%)	△51.8	3.4	—	—
経常利益 (百万円)	△9,649	1,306	△10,955	—
当期純利益 (百万円)	△7,694	990	△8,685	—

注) 配当については見送りを予定しております。

(3) 財政状況

【財務状況】	2021年3月期	2020年3月期	増減
総資産 (百万円)	41,302	31,623	9,679
純資産 (百万円)	5,751	11,831	△6,079
1株当たり純資産額 (円)	27,059.80	55,658.84	△28,599.04
自己資本比率 (%)	13.9	37.4	△23.5

(4) 運航実績・輸送実績

運航面においては、就航率は98.9%(前年同期98.8%)と前年同水準でしたが、定時出発率は遅延(空港混雑を原因とする)の減少及び社内での定時性向上を目的とした取り組み等により98.9%(前年同期91.7%)と前年同期を大幅に上回りました。

【運航実績】	2021年3月期	2020年3月期	増減
運航便数 (便)	18,660	27,071	△8,411
欠航便数 (便)	202	337	△135
就航率 (%)	98.9	98.8	0.1
定時出発率 (%)	98.9	91.7	7.2

輸送実績は、新型コロナウイルス感染症拡大による旅客需要減少の影響を受け、提供座席数1,900,102席(前年同期比32.2%減)、有償旅客数659,609人(同63.3%減)、有償座席利用率34.9%(前年同期64.0%)となりました。

【輸送実績】 *コードシェア販売分を除く	2021年3月期	2020年3月期	増減
有償旅客数 (人)	659,609	1,796,046	△1,136,437
提供座席キロ (千席・キロ)	1,979,585	2,946,491	△966,906
有償旅客キロ (千人・キロ)	691,090	1,884,740	△1,193,650
有償座席利用率 (%)	34.9	64.0	△29.1



2. 今後の見通し

今後における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を講じ、各種政策の効果や海外経済の改善から持ち直していくことが期待される一方、感染の動向によっては国内外の経済へ影響を与えるリスクが懸念されています。

航空業界においては、2021年2月から開始されたワクチン接種が順調に進み感染者数の減衰に繋がることで、需要の回復が期待できるものの、先行きは不透明であり回復には時間を要することが予想されます。

このため、現時点での収支の予想は非常に困難であることから、予想値の公表を見送ることとしました。業績予想の開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。

このような環境下においても事業を継続し九州・沖縄の地元と共に復活を果たすべく、引き続き安全運航を堅持し、感染症拡大の防止、2020年5月27日に公表した緊急対策の継続・深化に努めるとともに、東京(羽田)ー沖縄(那覇)線の新規開設を含む路線再編など、今後の成長軌道への回帰を見据えた基盤作りとしての事業構造改革に全社で取り組んでまいります。

以上

<参考資料>

(数値は全て%)

路線別輸送実績 *コードシェア販売分を除く		有償座席利用率 (前事業年度値)	提供座席数 前事業年度増減比	有償旅客数 前事業年度増減比
東京	— 宮崎	27.0 (60.7)	△42.4	△74.4
	— 熊本	35.6 (65.8)	△38.9	△66.9
	— 長崎	33.1 (65.9)	△38.4	△69.1
	— 鹿児島	38.2 (65.8)	△36.1	△62.9
	— 大分	30.2 (59.5)	△37.9	△68.6
	— 沖縄	59.3 (—)	—	—
	小計	33.0 (63.4)	△39.1	△68.5
沖縄	— 宮崎	22.3 (62.4)	△6.5	△66.6
	— 鹿児島	33.5 (76.0)	△18.7	△64.2
	— 神戸	54.3 (70.8)	△10.7	△31.5
	— 名古屋	27.1 (57.2)	△0.1	△52.7
	— 石垣	42.6 (80.2)	△25.3	△60.3
	小計	40.2 (68.6)	△12.7	△51.4
名古屋	— 宮崎	32.1 (—)	—	—
	— 鹿児島	59.2 (56.6)	20.8	26.1
	小計	49.0 (—)	—	—
福岡	— 沖縄	40.0 (—)	—	—
全路線合計		34.9 (64.0)	△32.2	△63.3

